

進捗状況の概要（1ページ以内）

学内の実施体制については、学長のリーダーシップの下、学修成果の可視化に基づく教育内容・方法等の改善を全学的・組織的に遂行するために、学長を室長とする教育支援・教学 IR 室を設置し、同室の専任教職員、教育・FD に関わる大学教員（兼務教員）をメンバーとする教育支援・教学 IR 室運営委員会を置いている。兼務教員の一部は学務委員会や FD 委員会、地域連携センターにも所属しており、学務委員会、FD 委員会、地域連携センターと円滑な連携が可能になっている。このように、本学では教育支援・教学 IR 室および教育支援・教学 IR 室運営委員会を中心に、教学マネジメント活動を推進する体制が整っている。

中心となる取組については、既存の行動目標と平成 28 年度に改訂したディプロマポリシー(DP)、学士力、教育目標領域（認知、情意、精神運動の 3 領域）、授業外学修時間との関係性を明示した新シラバスを電子シラバスとして運用を開始した。その他、フィードバック方法を新規入力項目として、評価の回数、評価方法、評価区分を新規入力項目として設定することで、評価ごとのブループリントを表示出来る機能を付加した。科目の単位取得と学生の獲得能力について、前期試験終了後より開始した検証では、DP の改定時に想定されていたことであるが、6 コンピテンス 65 コンピテンシーからなる DP について、達成に寄与する科目数の平均性・統一性に問題があることが明らかとなった。そこで DP の達成をより確実なものとするために、平成 30 年度以降の新カリキュラムについて見直しを開始した。

取組の成果については、新シラバスの入力・運用を新規に構築した e-シラバス上で行い、従来の冊子での運用を行っていたシラバスに比べ利便性を高めることができた。また、学生の獲得能力の数値化による可視化の基盤となる新シラバスの運用が開始され、検証により DP 達成における本学カリキュラムの問題点を明らかにすることができた。この問題点を改善するため、現行のカリキュラムの見直しに着手した。この一連の工程により継続的教育改善のための PDCA サイクルを進めることができた。また、シラバスに明示した授業外学修時間は、大学設置基準で定められた 1 単位の修得に必要な学習時間が 45 時間であることを踏まえ、各科目の単位数を基準に単位修得に必要な時間数を算出した。この時間数と実際の授業時間を比較し、不足の時間数の予習・復習を学生に求めることで単位の実質化と各科目間の平準化を図ることができた。

補助期間終了後の継続発展に向けた取組については、現行の体制で学生の獲得能力の可視化の精度を上げるための改善を継続して行うとともに、各種教学データの効果的運用をはかり、大学の教育改善を継続的に推進していく。本事業最終年度の平成 31 年度に外部評価を実施する予定であるが、補助期間終了後も、補助期間中と同様に 3 年ごとに外部評価を実施し、第三者の立場から客観的視点による評価・検証の機会を確保することによって、教学マネジメント活動の改善を推進していく。

学内外への波及効果については、関連学会やシンポジウムにおいて取組み内容についての発表（日本歯科医学教育学会、SPOD フォーラム 2017、高知大学 AP シンポジウム、AP テーマⅣ合同シンポジウム、Q-Conference2017）や、合同シンポジウムへの参加（松本大学第 2 回 AP フォーラム、八戸大学 AP 中間報告会）により積極的に学外への発信を行うとともに、FD・SD を行うことで学内での取組み内容の周知徹底を行った。